

★プレビュー・インタビュー

ワールドツアーでウィーン・デビュー
東京でも2年ぶりにリサイタル開催

平井元喜ピアノリサイタル

訊き手||横谷貴一

ロンドンを拠点に世界各地で活躍するピアニストで作曲家の平井元喜が、ウィーン・デビューを含むワールドツアーをこの春から行っている。その一環として2年ぶりに東京でもリサイタルが行われる。

尚、このツアーのヨーロッパ公演は、東日本大震災での福島震災孤児と遺児のために寄付するチャリティでもあり、またウィーン公演ではプログラムとCDの売り上げを熊本地震の被災者のために寄付し、会場で募金も行ったという。

——今回のリサイタルはワールドツアーの一環だそうですね。

平井 僕はロンドンを本拠にしていますので、ロンドンのバーピカンセンターを皮切りに、既にアムステルダム・コンセルトヘボウやウィーン・コンツェルトハウスのシューベル



トザールでも弾きました。これからスペインやポルトガル、北アフリカなどでも演奏します。

実は今回ウィーンはデビューでしたので、ウィーン公演に合わせてベートーヴェンやシューベルトを入れましたし、シヨパンもウィーンでデビューしていますので、こういうプログラムにしました。

——今回も新作を披露なさいますね。

平井 今年のツアーのために、和歌の藤原定家の流れを汲む冷泉貴実子さんからの委嘱という形で、小倉百人一首から10首選んでいただいて、それを基に作曲しました。あまり時間がなかったのですが、世界初演のロンドン公演では4割くらい出来上がっていて、6割くらいが即興でした。既に数公演終わりましたが、公演のたびに実践を通して少しずつ完

成に近づいています。現段階では1/2割が即興という状態ですが、自分の作品は古典ではありませんから、現代の作曲家としては即興の部分があってもいいのではないかと思っています。7月1日の東京公演は限りなく完成形に近づくといいと思います。それでも5%くらいは即興の部分を残しておきたいです。というのは、ライブでこそ発見できることも多いですし、その土地の聴衆からインスパイアされて生まれる新しい解釈など、即興的に生まれるものがあるのです。だから実践を重ねつつ洗練させていく、完成させていくというのが一番いいと思っています。それは古典の場合も同じだと思っています。

勿論出版する際には大部分決めますが、私の作品を他の方が弾く場合

でも、私の演奏が絶対ではありません。私自身も毎回少しずつ変化しますから。また、他の演奏家でも、ライブとレコーディングとで違う演奏があつたりしますが、どちらが正しいというものではなく、それぞれ聴く価値があります。もし常に同じ演奏を聴きたいのなら録音したCDなどを聴いていけば良いわけで、音楽は生き物ですから、毎回変わるのもライブの良さではないでしょうか。

——是非多くの方にライブを聴いていただきたいですね。ありがとうございます。ございました。

♪お話し…冷泉貴実子

♪曲目…ベートーヴェン／ピアノソナタ第27番ホ短調Op.90、シューベルト／ピアノソナタ第21番変ロ長調D.960、平井元喜／小倉百人一首による《音詩》(2016) (選…冷泉貴実子) (委嘱新作、日本初演)、平井元喜／Grace & Hope(祈り、そして希望)(2011)、シヨパン／マズルカ第41番嬰ハ短調Op.63-3、ノクターン第4番へ長調Op.15-1、スケルツォ第2番変ロ短調Op.31
♪7/1・19時、銀座・王子ホール
♪ミリオンコンサート協会 (☎03-3501-5638)